

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 15 No.2 2013年1月31日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

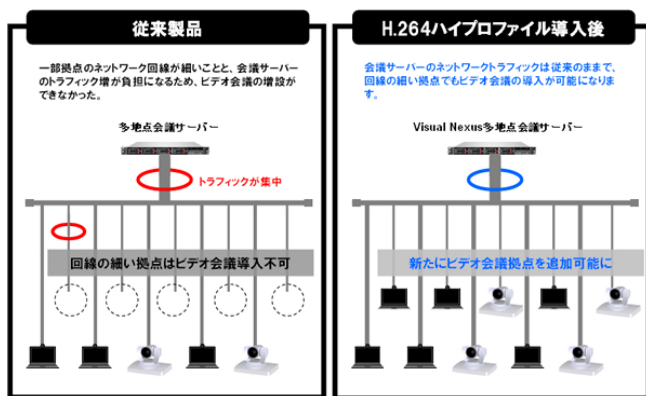
Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

沖電気工業の PC ベースのビデオ会議システム、H.264 ハイプロファイルなどの新機能を搭載した「Visual Nexus ver5.1」を発表

沖電気工業株式会社(東京都港区)は、同社の PC ベースビデオ会議システム「Visual Nexus ver5.1(ビジュアルネクサス ver5.1)」の販売を 12 月 18 日より開始すると発表。

(2012年12月18日)



Visual Nexus ver5.1 によるビデオ会議拠点増加の例
(沖電気工業 資料)

今回発表された新機能は以下の通り。

(1)H.264 ハイプロファイルを搭載:H.264 ハイプロファイルによって、ビデオ会議に必要なネットワーク帯域を最大50%削減することで、低帯域でも高品質画像の送受信が可能となった。同社によると、クライアント PC 端末への搭載は世界初となるという。

(2)MPEG4 AAC-LC を搭載:PC 用ビデオ会議クライアントに高音質な音声コーデックを搭載した。

(3)自動録画設定が可能:ビデオ会議の予約時に Visual Nexus ビデオ会議録画サーバの自動録画設定が可能になった。

(4)Web ポータルサイト改良:多地点会議サーバの Web ポータルサイトを改良し、会議の予約状況が端末やアカウントごとに確認できるようになった。

今回発表された H.264 ハイプロファイルの意義は、ビデオ会議によるネットワーク負荷を軽減するとともに、コミュニケーションに関わるコストの課題を解決するところにある。

ネットワーク帯域の不足により、ビデオ会議が導入できなかった、あるいは、導入拠点数を制限するしかなかったユーザでも導入が可能になる。また、新たなネットワークの契約や増強を行わずに、既存のネットワーク上で導入が可能になる。さらには、ネットワーク帯域の制限により SD 画質でビデオ会議を行っていたユーザが、HD 画質での利用することも可能になる。

なお、今回搭載された H.264 ハイプロファイルは、NTT メディアインテリジェンス研究所が開発し、NTTアドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)で商品化した軽量低遅延 H.264ソフトウェアコーデックを採用している。SDKを利用することで短期間の製品化を実現したという。

KDDI、タブレットなどを使ったテレビ会議や資料共有が行える KDDI Office サービスを開始

KDDI 株式会社(東京都千代田区)は、「KDDI TeleOffice」の提供を 12 月 19 日より提供開始と発表。(2012年12月18日)

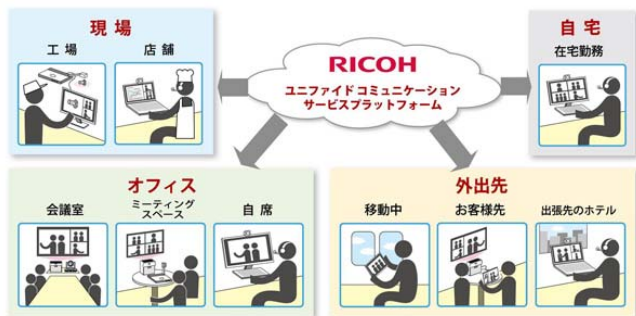
KDDI TeleOffice は、iDeep ソリューションズ株式会社(東京都港区)との協業により、タブレットを活用して資料共有や映像(720p 15fps)を使った、いつでもどこからでもコミュニケーションが可能なサービス。従来のテレビ会議システムに比べて、会議室予約や参加人数の制限が不要になる。

1つの ID でタブレット・スマートフォン・PC などのマルチデバイスに対応し、セキュリティの面では、利用者毎の ID・パスワードだけでなく、事前に登録されたデバイスのみアクセス可能な端末認証機能を提供する。一方、イメージ共有機能においては、資料やホワイトボードのページ送りや拡大表示、マ

ーキング・書き込みが複数のデバイスで同期される仕組みになっている。

KDDI TeleOffice の初期費用は、1,050 円(税込)/ID。
月額利用料は、980 円/ID。

リコー、ユニファイドコミュニケーションシステムが PC・iPad に対応



RICOH UCS Apps による利用イメージ (リコー 資料)

株式会社リコー(東京都中央区)は、同社のユニファイドコミュニケーション「RICOH UCS」において、新たに PC・iPad に対応した「RICOH Unified Communication System Apps(リコー ユニファイドコミュニケーション システム アップス、以下「RICOH UCS Apps)」を発表。(2012 年 12 月 14 日)

無料の専用アプリケーションを PC や iPad にインストールすることにより、クラウド上の RICOH UCS サービスプラットフォームに接続して、映像と音声によるコミュニケーションを実現した。また、少人数向けシステム「RICOH Unified Communication System P3000(以下、P3000)」とも接続可能で、たとえば、本社と支社間の RICOH UCS を使ったビデオ会議に、RICOH UCS Apps を使うことで外出先からでも参加することができる。

アプリケーション名は、「RICOH Unified Communication System for Windows」と「RICOH Unified Communication System for iPad」。提供開始日は、2013 年 1 月 31 日。提供方法は、Windows 版については、リコー Web サイトから無料ダウンロード。また iPad 版については、App Store から。

サービス料金については以下の表の通り。

サービス名	契約 ID 数	1ID あたりの月額利用料
RICOH UCS App サービス料金 (シングルフラット)	1ID～9ID	5,000 円/月・ID
	10ID～24ID	4,500 円/月・ID
	25ID～49ID	4,000 円/月・ID
	50ID～99ID	3,500 円/月・ID
	100ID～	3,000 円/月・ID

上記サービス料金には、RICOH UCS データセンタの利用料金、サポートサービス(バージョンアップ、RICOH UCS コンタクトセンタ)料金を含む。ただし、ID は個人単位での利用を許諾しており、複数人で1つの ID の共有利用はできない。なお、サービス利用開始時に、登録手数料が3,000 円/ID(消費税別)かかる。

ラドビジョン ジャパン、SCOPIA Mobile for Android アプリ配信を開始、アンドロイド携帯端末から HD ビデオ会議が可能に

ラドビジョン ジャパン株式会社(東京都台東区)は、「SCOPIA Mobile for Android アプリケーション」を Google プレイストアから無償でダウンロードできるサービスを12月13日より開始すると発表した。(2012 年 12 月 13 日)

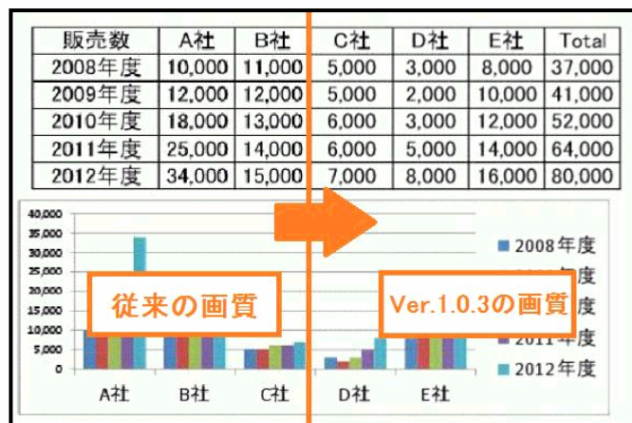
現在対応しているアップル社の iPhone や iPad に加え、今回発表されたこのアプリによって、アンドロイド携帯端末からも、標準に準拠するビデオ会議専用端末機、プレゼンスシステム、デスクトップ PC、Mac、Microsoft Lync、IBM Lotus Sametime などのユニファイドコミュニケーション製品との HD ビデオ会議(720p/15fps)接続や会議への参加ができるようになった。

VQS コラボ、新バージョンリリース。アンドロイド端末での共有資料の画質向上

VQS マーケティング株式会社(京都市南区)は、同社が販売する Web 会議・遠隔授業システム「VQS コラボ Version3」と「VQS コラボ V3 for Learning」向けの Android タブレット対応版「VQScollabo for Android」を2012年12月27日にバージョンアップした。(2012 年 12 月 27 日)

新しいバージョンでは以下の対応を行った。(1)

VQScollabo for Android の共有資料の画質を向上し、視認性の面でパソコンと同じ画質で資料を共有できるようになった。(2)一部ペンの色合いの調整。Windows 版と異なったため。(3)会議室の終了処理が行えないケースがあり、その不具合を修正した。



旧バージョンと新しいバージョンとの画質の違い(VQSマーケティング資料)

アンドロイド版は、GooglePlay からダウンロードすることで入手できる。その際に、「VQS コラボ」と入力し検索する。

VQS コラボの特長は以下の通り。(1)高音質:大手英会話学校でも採用された高音質という。違和感のない会話に対応できるリップシンク。(2)手書きデバイスに対応:メモを書く感覚でホワイトボードへの書き込みが可能。手元の資料とホワイトボードの資料書き込み位置が一致する。(特許番号:4360547)(3)安定動作:途中で会話が途切れたり、音声にノイズが入ったりすると会議進行の妨げになる。Webレッスンでは返金や振替といったトラブルにつながる可能性がある。それを防ぐためのさまざまな技術を用いて安定したシステムを実現しているという。(4)選べる会議室:普通の会議利用だけでなく、大人数で使用するセミナータイプや少人数タイプも用意している。

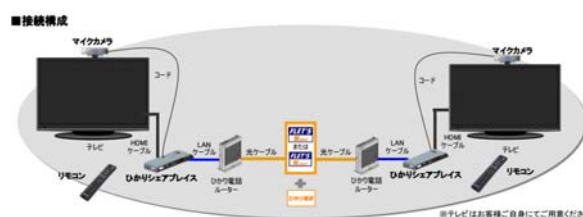
NTT 東日本、映像コミュニケーション端末を販売開始

NTT 東日本(東京都新宿区)は、テレビに接続することで720pHDに対応したテレビ電話や、写真・動画などのファイル送受信を行える、映像コミュニケーション端末「ひかり

シェアプレイス」を2012年12月20日から販売開始。(2012年12月13日)



ひかりシェアプレイス (NTT 東日本 資料)



接続構成 (NTT 東日本 資料)

ひかりシェアプレイスは、自宅のテレビの大きな画面を通じて周囲の様子も映し出すことで、従来の会話重視の“顔だけ”(橋本補足:単体のテレビ電話機のことを指していると思われる)のコミュニケーションではなく、あたかも同じ場所にいるかのようにその場の雰囲気を共有しながら、映像コミュニケーションを図ることが可能となっている。本体価格は、38,000円(税抜き)。販売はNTT 東日本エリア。

ひかりシェアプレイスのターゲットユーザーについて、NTT 東日本では、コンシューマだけではなく、法人企業での簡易なテレビ会議システムや企業と顧客をつなぐサービスとしても活用されることを想定している。また、法人向けでは、株式会社ベストブライダルによる、遠隔地とブライダルサロンをつなぐ新たなコンサルティングサービスの提供も予定されているという(2013年初頭予定)。

ひかりシェアプレイスの特長は以下の通り。(1)720pのHD画質に対応している。(2)テレビのHDMI端子に接続することで、面倒な設定なしに利用が可能。操作はリモコンで行う。(3)インターネット閲覧や動画・音楽再生を楽しむこともできる。(4)フレッツフォン「VP1000」・「VP1500」・「VP100」や、

パソコン対応の「ひかりソフトフォン」、スマートフォン/タブレット用ひかり電話対応アプリとのテレビ電話もできる。(6)「テレビ電話チョイス定額」に対応:あわせて契約すると1回の通信が30分以内のテレビ電話であれば、月に何回でも定額で利用できる。このほか、利用にあたって必要な契約は確認要。

なお、同日、NTT 西日本(大阪市中央区)からも、同様に「光だんらんTV」という名称で販売開始の発表が行われている。詳細は同社に確認要。

ビジネス動向-国内

NTTアドバンステクノロジーのH.264ソフトウェアコーデック、沖電気工業のビデオ会議システム「Visual Nexus」に採用

NTT アドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)のH.264ソフトウェアコーデック「HDVE-200/HDVD-200」が、沖電気工業株式会社から12月18日に発売されたビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」新バージョンに採用された。(2012年12月18日)

NTT-AT では、従来から映像配信サービス向けにAVC/H.264ソフトウェアコーデックを販売しており、今回沖電気により採用されたHDVE-200/HDVD-200は、2012年6月に提供開始されたもの。NTTメディアインテリジェンス研究所が開発し、NTT-ATにて商品化した。フルハイビジョン映像に対応し双方向の映像コミュニケーションを実現したソフトウェア。

今回採用された理由としては、以下の点を挙げる。(1)映像処理の計算量が少なく軽量であるとともに、低遅延で低演算量の特長をもつソフトウェアコーデックである。(2)回線帯域を50%削減するH.264ハイプロファイルに準拠しており高画質な圧縮を実現している。(3)SDK形式のためビデオ会議システムへの組み込みや各種映像システムの開発を短期間・低コストで行える。

NTTアドバンステクノロジーでは、今後、遠隔医療応用としての手術中継やインタラクティブな会話を伴うイベントの

ライブ中継、リアルタイムに質疑応答可能な遠隔講義など、さまざまな分野に拡大していく予定という。

ビジネス動向-海外

Reliance グループ Infotel 社、SPIRIT DSP 社の LTE モバイル向け SDK を採用

SPIRIT DSP 社(ロシア)の発表によると、インドの Reliance Group の一社である通信事業者 Infotel 社が、SPIRIT DSP 社の「TeamSpirit Voice&Video Engine Mobile」を採用した。(2012年12月18日)

TeamSpirit Voice&Video Engine Mobile は、モバイルデバイスでHDビデオと音声コミュニケーションを実現するソフトウェア開発キット(SDK)。Relianceグループは、LTEネットワーク構築に10億ドルの投資を計画しており、LTEネットワークでの音声とビデオ通話を実現するために、SPIRIT DSP 社のSDKを採用した。

SPIRIT エンジンによって、Relianceグループは、LTE加入者に対して、フリーソフトでは難しいあるいは他社にはない、高品質のサービスを提供できるとSPIRIT DSP社は自信を見せる。

導入・利用動向

四国銀行、テレビ会議システムを全店に導入

株式会社四国銀行(高知県高知市)は、顧客との対話型のテレビ会議システムを全店に順次導入すると発表。(2012年12月19日)

テレビ会議システム導入の目的としては、以下の通り。

(1)相続に関する相談業務の充実:本部(相続センター)の専門部員が、営業店に来店した顧客に対して、テレビ会議システムを通じて、相談手続きをわかりやすく説明する。加えて、相続手続きを解説した「相続手続きのご案内」も新たに調製し、顧客が利用できるように各営業店に備置する。

(2)大災害発生時の現地被害状況把握、本部との連絡等での活用:「南海トラフの巨大地震」等の大災害発生時、被災地域での現金払い出しなどの業務継続を迅速に行うため。

(3)行内の会議・研修等での活用:移動にともなうエネルギー

一の使用削減など環境負荷低減にも貢献する。

導入時期について。本部と高知県内店舗については、平成24年12月より平成25年3月までに順次導入。また、徳島県・香川県・愛媛県・本州店舗については、平成25年9月までに順次導入となっている。

四国銀行 <http://www.shikokubank.co.jp/>

セミナー・展示会情報

< 国内 >

ビデオ会議 徹底活用セミナー

マルチデバイス環境で変わるビデオ会議の活用法

日時:2月6日(水)14:30~16:30(受付:14:00)

会場:沖電気工業 虎ノ門ショールーム(東京都港区)

主催:沖電気工業株式会社

詳細・申込:<http://www.oki.com/jp/telecom/event/vn.html>

Web会議システム「IC3」体験ワークショップ

日時:2月6日(水)16:00~17:30

会場:キャノンソフト情報システム 東京本社(東京都品川区)

主催:キャノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<https://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1462>

アマゾン、シャノン、ブイキューブ 3社共催 クラウドサービス活用セミナー

日時:2月7日(木)14:00~16:30(受付:13:50~)

会場:ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催:アマゾンデータサービスジャパン株式会社・

株式会社シャノン・株式会社ブイキューブ

詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/37>

Cisco Connect Japan 2013

日時:2月13日(水)~14日(木)

会場:東京ミッドタウンホール&カンファレンス

およびザ・リッツ・カールトン東京

主催:シスコシステムズ合同会社

詳細・申込:<http://www.cmarket.jp/ciscoconnect/>

*UC、遠隔会議関係のセッションが多数あり。

【"見える"カレッジ オンライン】ビジネスに効果あり!

Web会議サービスの活用メリットとは

日時:2月15日(金)14:00~15:00(接続開始:13:50)

会場:オンラインセミナー受講

主催:ブイキューブ株式会社

詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/42>

【"見える"カレッジ】Web会議+Polycom~タブレット活用もご紹介~

日時:2月20日(水)14:00~16:30

会場:ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催:ブイキューブ株式会社

詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/40>

【"見える"カレッジ】Web会議+Polycom~タブレット活用もご紹介~

日時:2月21日(水)14:00~16:30

会場:ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催:ブイキューブ株式会社

詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/41>

定期レポート 電子ブック版

CNAレポート・ジャパンでは、2003年から定期レポートをPDF版で発行しておりますが、2012年、カタログスクウェア株式会社に、定期レポートの電子ブック版を製作していただきました。

これまで定期レポート(PDF版:2003年から)については、1号毎にファイルを開いて読む形でした。それに対して、電子ブック版では、複数の号が1冊にまとめられ雑誌のページをめくるように定期レポートが閲覧できるようになりました。また、記事内の検索もしやすくなりました。PCのほか、スマートフォン、タブレットから閲覧できます。

この電子ブック版は、これまでの1号単位のPDF版と並行して提供します。

CNA Report Japan アーカイブ 電子ブック版

2003年-2012年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

2013年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/ebook/

カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

*遠隔会議業界で長くお勤めされ、今年電子カタログ・ソリューションで起業された方が経営されている会社です。

*この電子ブック版についてご意見等ございましたらよろしくお願いたします。橋本宛 cnar@cnar.jp

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございます。

今年は、引き続きクラウド・モバイルが世界的に注目されるかと思われませんが、それに加えて、CNAレポート・ジャパンの日々配信である dtc-forum やフェイスブックを受信されている方はお伝えしている通り、WebRTC ベンダーが(特に北米)増えてきていることから、WebRTC も今年のキーワードのひとつになるのではないかと気がしています。次号もよろしくお願致します。橋本啓介